

平成26年度 第2回広島市多文化共生市民会議会議要旨

1 開催日時 平成27年(2015年)3月17日(火) 15時～17時

2 開催場所 広島市役所本庁舎14階第7会議室

3 出席者

(1) 市民会議委員

鳥 日娜(ウ・リナ)、植木 ミエ(ウヰキ・ミエ)、ヴェール・ウルリケ、小川 順子(オガワ・ジュンコ)、カルキ・パラメソール、丁 基和(チョン・キファ)、二宮 孝司(ニノミヤ・タカシ)、朴 外順(パク・ウエソン)、パルサド・シリ、山口 ジョセリン(ヤマガチ・ジョセリン)、李 湛(リ・タン)、呂 世珍(リョウ・セジン)、呂 民愛(リョウ・ミン)、盧 濤(ロ・トウ)

(2) 事務局

人権啓発部長、多文化共生担当課長 他1名

4 公開・非公開の別 公開

5 傍聴者 1名

6 会議次第

(1) 開 会

(2) 人権啓発部長あいさつ

(3) 議 事

ア 前回会議の質問等に対する回答について

イ 「広島市多文化共生のまちづくり推進指針」に基づく施策の取組状況について

ウ 「平成27年度多文化共生のまちづくり促進事業」について

エ 広島市多言語広報ガイドライン(案)について

オ 広島市ホームページのリニューアル等について

カ 平成26年度外国人市民の生活相談コーナーの利用状況等について

キ 区役所窓口レイアウト改善について

ク その他

7 委員の発言要旨

[事務局]

議事ア 前回会議の質問等に対する回答について説明

[委員]

三篠公民館のモンゴル文化体験の事業内容にパオという表現があるが、ゲルというのが正しいので修正した方がよい。

[事務局]

公民館に伝える。

[事務局]

議事イ 「広島市多文化共生のまちづくり推進指針」に基づく施策の取組状況について説明

[委員]

ヒロシマ FreeWiFi プロジェクトは、原爆ドーム周辺だけで実施するのか。また、事業の終了予定はいつか。

[事務局]

市内中心部なのでもっと広いエリアである。終了予定日については、通信事業者等と連携しながら実施するので未定である。

[委員]

市営住宅入居者問題について、基町市営住宅では、契約者が永住権許可を得て中国に既に帰国しているのに、それを隠して他人に1万円か2万円で又貸ししているという人をたくさん知っている。リストを出してもいいくらいである。住居だけでなく駐車場もそうである。新しく入居申し込みしたくても、そういう人たちが満杯なので入れないという苦情はたくさん聞いている。

[事務局]

そういう事実があるということは所管課に伝える。

所管課から実情を教えてほしいという依頼があった場合は協力してもらえるのか。

[委員]

個人名は出さないが協力はする。

[座長]

人権音楽教室の開催というのはどういう内容なのか。

[事務局]

学校に働きかけて、子供たちにスポーツや音楽を通して人権について考えるきっかけを持ってもらおうという新しい試みである。

[座長]

県立美術館の日本美人画展があり行ってみたが、入館料が外国人であれば400円で入れた。市内の美術館や博物館などの文化施設も留学生や外国人観光客に減免するという事は考えられないか。

[事務局]

そもそも市の料金体系は安く設定しているということはある。また、これまでも児童、障害者、高齢者などは無料としている施設もある。県立美術館の方針等も聞いてみて所管課に伝える。

[委員]

技能実習生が増えてきている。雇用する側には色々な情報が提供されているが、雇用される側の実習生には情報が提供されていないという実態があるようである。実習生にも情報が提供されるよう考えてもらいたい。

[事務局]

技能実習生制度は国の制度なので、直接市が関わるというのは難しい。生活相談コーナーで相談を受ければその時に対応している。

また、実習生が市民登録する際に、生活ハンドブックを渡している。今後、実習生が更に増えるのに伴い課題や問題点も増えてくることが予想されるため、国、県と協議する場を設定していきたい。

[事務局]

議事ウ 「平成27年度多文化共生のまちづくり促進事業」について説明

[委員]

外国人防災リーダーの養成について、対象者は外国人に限らなくてもいいのではないかと。外国人をよく知っている人であればいいのではないかと。

[事務局]

外国人防災リーダー養成については、災害配慮者から地域防災の担い手という発想の転換に基づいて実施したいと考えている。また、地震を知らない外国人も多くいるので、そうしたことを伝える人を増やしていきたい、防災情報などを他の外国人に広めてもらいたいというのが趣旨としてある。このため、想定対象は外国籍の市民であるが、地域の外国人にとって一番頼りになり、かつ、外国語が話せる人であれば日本人でもありがたいと思う。

[委員]

日本人に提供する情報の中で、高齢者や子供に配慮するよという記述を入れる際は、外国人市民にも配慮するよという記述も合わせてしてもらいたい。

[事務局]

来年度組織改正が行われ、市長直轄の危機管理室が設置されるので、いただいた意見、避難所の運営マニュアル、多言語支援センターの在り方等について引き続き議論していきたい。

[委員]

防災リーダーを英訳するとディザスターリーダーとなるが、外国人市民にとっては役割や解釈について混乱を招くとも考えられる。アクティブリーダーかモティベートリーダーという訳にしたらどうかと思う。

[委員]

先日、ひろしま国際センターで避難所での実務研修に参加したが、大変だった。現実の避難所運営であればもっと大変だろうと思うが、地域防災リーダーを育てても地域と繋がっていないければ全く意味がないので、外国人防災リーダーと住んでいる人、自主防災会等の連携を考えてもらいたい。

また、各地域、各消防署単位で防災訓練や消防訓練を実施していくと、繋がりが深まっていいと思う。

[事務局]

そもそも町内会や自主防災会に外国人が入っていないというのが課題であるが、現在、来年度の各区の防災訓練について検討しているところであり、地区の防災訓練に外国人防災リーダーや通訳ボランティアなども一緒に参加して地域との繋がりを持っていくことについて検証したいと考えている。

[委員]

今回の災害で、小学校の避難所開設や運営については校長がその場その場で判断し決断したわけであるが、一人ひとりに丁寧に関われるかどうかは日常の繋がり方であり、それを考えたときにつなぎ役の存在が大きいので、リーダーでもありつなぎ役としての存在にもなってほしい。

[委員]

3月22日にフィリピン人協会が中消防署と連携して消防訓練を実施するというPRを幟町教会で行っている。誰でも参加できるので参加してもらいたい。

[委員]

災害時の外国人市民支援のことが大きくとらえられているが、一番は、まずは外国人も自分のことは自分で守ることが重要である。例えば、地震が起きたらこうするという自分で意識して責任を持って行うということが大事である。

[事務局]

議事エ 広島市多言語広報ガイドライン（案）について説明

[委員]

ガイドラインの策定に伴って、チラシやリーフレット等が多言語で送られてくると思うが、自宅にいる外国人は日本人と同じで親の世代で高齢者が多い。市からの情報はだいたい字が小さい。特に詳しい情報の場合にはなおさら字が小さくなり大変読みづらいので、そこらも配慮して情報提供してもらいたい。

[事務局]

ガイドライン策定後各所属へ通知する際に、実際の情報提供に当たっては字を大きくすること、読みやすい文とすること等を入れたと思う。

[委員]

外国人は入国管理局を通して入国してくるが、研修生などの弱い立場の外国人は問題が起きてもなかなか前面に出て要請しにくい。市が入国管理局にお願いして情報提供することも必要ではないか。

入国審査の際にかなりの時間待たされるので、その間にチラシでもいいのでパスポートに挟んで渡してあげるとかでもいいのではないか。

[事務局]

現在、入国管理局にも生活ガイドブックを渡して入国される際に配付してもらっている。

[事務局]

議事オ 広島市ホームページのリニューアル等について説明

[委員]

市ホームページは1回見たら次回また見に行こうというシステムになっていない。英語のページではインフォメーションに何も書いてないので、どの情報が更新されたのか分からないから、その情報が更新されているのかどうかまた一から確認しないといけない。

更新した情報をインフォメーションのトップに掲載すれば更新した情報だけ見ればいいのか。

周辺市町村も含めてイベント情報を掲載するのも必要である。

[事務局]

今回のリニューアルでイベント情報は特化した形で掲載している。平和文化センターのホームページに、市民と市政を翻訳したものを掲載しているので、そこにリンクを張れば少しは解決するのかもしれないので検討してみる。

[座長]

外国語のコンテンツはどういう情報を掲載しているのか。やさしい日本語で掲載しているのか。

[事務局]

基本的には生活ガイドブックの情報を掲載している。

[座長]

事務局から連絡事項はあるか。

[事務局]

平成27年9月4日で現委員の任期が終わり改選になる。9月5日以降に平成27年度の市民会議を行いたい。火曜日に開催したいと考えているので、平成27年度第1回の開催は、9月8日（火）午後3時からを考えている。

[座長]

以上で市民会議を終了する。